

二〇二五年度 硬筆部昇段試験を終えて

公益社団法人 滋賀県書道協会 理事長 神田 浩山

初段（古拙）

- ・一画一画丁寧に書かれた作品が多く、努力の跡を感じました。楷書に優れた作品が多かったです。
- ・行書は正しく書けていないものがありました。形にとらわれて流れのないものや、横の変化がなく幅が狭いものが多かったです。ゆったりと広がりのある筆運びができるよう研究して下さい。
- ・ハガキは、裏面の文字配置にバランスのよくないものが多かったです。文字の大小や余白の取り方にも配慮しましょう。
- ・力を入れすぎずに、ゆったりと構えて柔らかな線で書くことで、すっきりとした文字を書くことができます。日々ペンを持つて練習を積んで下さい。

二段（西本）

- ・中学生の作品も優秀な作品があり、日頃の練習が伺えました。
- ・筆圧の強い作品が多く、軽く書けるよう、日頃からカタカナの練習は欠かさないようにしましょう。
- ・行書の字形（くずし方）をよく理解せず、お手本通りに書けているものの、不自然な字形のものが多かったです。行書体を自分で調べ、しっかりと自分のものとしてマスターしてほしいです。
- ・俳句作品は、バラバラとして流れていない作品が多かったです。左右に流れながら中心はしっかりと意識しましょう。ひらがなの連綿も書く前に一度練習してから、作品を書く習慣をつけましょう。

三段（前田）

- ・力が入りすぎて裏面がデコボコしている作品が散見されました。軽いタッチでスッキリとした線を引く練習を積んでいただきたいです。
- ・カタカナは文字が小さかったです。自信をもって大きく書いて下さい。
- ・漢字（楷と行）行書が楷書的になっていました。次の画へのつながりを大切にして下さい。
- ・俳句 文字の大小や行の振幅、連綿などにも留意し、流れを意識して取り組んで下さい。
- ・ハガキ 楷書体で書いてあるものが多く、丁寧に書き切っており好感がもてました。本文の紙面構成や文字の大きさ・余白の取り方等に配慮されると良いと思います。

四段（藤居）

- ・第一問のカタカナは、硬筆学習の基本です。軽い筆圧でスッキリとした伸びやかな線を引けるように、合格者の方も自分の線を磨いて下さい。
- ・第二問の楷書・行書の書き分けは、日常的に書くものより大きいサイズの文字になるので、誤魔化しがききません。まずは楷

書の組み立てをしつかりと理解し、それを行書にするにあたって、いたずらに難しい崩し方をせずに、シンプルに転折（曲がり角）で曲線を使う、線を続ける場合は部分の最後だけにする、接筆を離す工夫をするなど、基本的な動きをまずマスターしていただくことが肝要です。

・第三問の漢字の漢詩句と行書の組み合わせについては、楷書は画数に応じた字配りの工夫を、行書は流れが出るように文字の横幅の変化の工夫があるとよいです。

・第四問のハガキについては、上下左右の余白、行頭行末を揃えるなど紙面構成の工夫、そしてふさわしい大きさで書くことをされるとよいと思います。

・全体として、月例審査で安定した成績を収められている方が、やはり優秀な成績で合格されていたように感じます。

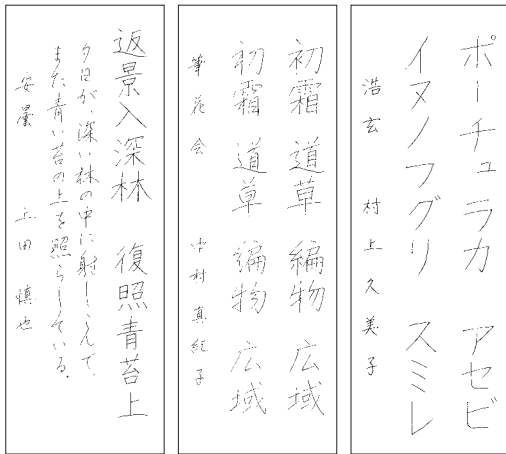
五段（金澤）

- ・第一問のカタカナの線がすっきりした線で整っていない方は、後の問題にも線に冴えがなかったです。やはり基本の線が大切なことが良くわかります。筆圧・線の角度も徹底して基礎学習して下さい。
- ・第二問の楷書、行書は「へん」と「つくり」の関係が整っていない方が見られました。
- ・第三問は、行書の字幅が同じで、行の流れをつくるまでに至っていない作品が多かったです。
- ・第四問は、住所書きの方はきれいに書けている反面、本文の配置や文字の大きさが整っていないかったり、また、葉書作品として見た時に表書きが合っていない作品がありました。葉書ですからペンの色も全体の書きぶりも揃って書ける様、練習して下さい。

六段（神戸）

- ・第一問のカタカナ。安定した線で書けていました。一点気になったのは「ソ」「フ」「ク」の様に最後払う所がとめになっている人がかなりおられたことです。協会のカタカナ表で確認下さい。
- ・第二問 楷・行の書き分け。楷書の字形は整っていましたが、接筆が離れたり交わったりと気になりました。また行書は、書き慣れない印象をうけました。

師範合格優秀作品



▲上田 慎也

▲中村真紀子

▲村上久美子

令和7年度硬筆部昇段試験合格者

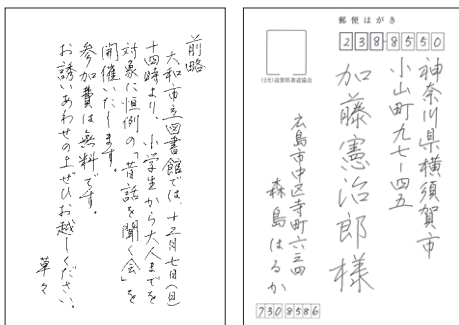
段 位	受験者数	合格者数
師範	66	13
準師範		23
6 段	62	24
5 段	78	38
4 段	63	37
3 段	107	75
2 段	101	85
初段	142	135
計	619	430

・第三問 行書で書く現代語訳に不慣れなものが多くありました。文字の大小、行の流れ、字形等普段から練習されることをお勧めします。

・第四問 ハガキ。楷書で書かれている方が多かったです。六段受験であれば行書で書ける様に日頃の練習を怠ることなく努力されることを望みます。

師範（神戸）

今回の硬筆実地試験では、受験者の筆致・構力・文字の美しさの総合的な完成度を確認いたしました。全体として、丁寧に書くという意識は高く、真摯に取り組んでいましたが「自分で考えて書く」という姿勢が一番大切です。先生のお手本をまねるのではなく、毎月の書朋の課題にまっすぐと取り組んで下さい。カタカナは線引きの基礎となり、楷書は字形の基礎となります。また楷書をどう行書にするかという取り組みも忘ることなく学んで下さい。やはり何枚も書くことで全ての字体に慣れることが大切です。日々鍛錬し自分の力にして下さい。師範に合格された皆様、おめでとうございます。さらに力をつけるためには、今後は必要とされている方を指導し、スキルアップを目指して下さい。ここからが始まりです。頑張ってください。



▲森島はるか